

民主化闘争情報

No. 976

2018年2月27日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR東労組が2月23日の団体交渉で、ベア実施方式や「生産性向上分」の位置付け等について、会社と認識を一致させた（合意した）としてスト解除の理由に使ったことに対し、会社が即座に「勤労速報（2月25日付）」で反論・全否定したことは、既報（民主化闘争情報 No. 975）のとおりである。

ベア実施の方式等に関する‘認識の一致’など無い

一方で、2月26日、JR東労組は「全組合員の皆さんに訴える！」なる文書を発信しホームページ上に掲載した。内容は、会社の勤労速報等の会社文書に対する「抗議」と反論であり、『23日の団体交渉でベア実施方式等に関する3つの‘確認’ができたので、ストを取りやめた』という何とも言い訳じみたものだ。そもそも、当事者の一方である会社が「認識の一致」など無いと全否定し、厳しく突っぱねる見解を示しているのだから、JR東労組はまさしく「嘘の上塗り」をしているに過ぎない。

会社からJR東労組へ

「労使共同宣言」の失効を通知！

特筆すべきは、2月26日に開催された第2回団体交渉の席上で、ついに会社がJR東労組に対して、「労使共同宣言」の失効を通知したことだ。会社は、同日、社内向けの「勤労速報」で明らかにし、JR東労組も「中央闘争委員会情報 No. 10」に自らその旨を記載している。会社によれば、『平成30年度のベースアップに係るこれまでの経緯、特にJR東労組の要求について、鋭意団体交渉を開催し、労使間協議を行ってきた状況において、JR東労組が明らかに事実と反する労使間の交渉内容に係る見解を喧伝したのみならず、争議行為を予告したことは、まさに、会社との間の信頼関係を破壊し、「労使共同宣言」の趣旨・精神を否定したものであり、既に失効したものとみなさざるを得ません。』とのこと。

JR東労組は、もはや引くに引けない蟻地獄状態

JR東労組は、「中央闘争委員会情報 No. 10」において、タイトルでは「闘争1号 第2回団体交渉を行う！労使の紛争状態は解決された事を確認！」と謳っておきながら、中段以降では、『労使の紛争状態は解決されたのに・・・会社は・・・「労使共同宣言は組合が破棄した」という主張を繰り返している』と驚きと戸惑いを隠せないようだ。

もっともらしく構築した「筋書き」に縛られ、もはや「紛争状態」であることすら認識できていないのであろう。支離滅裂である。同情報では、「労使共同宣言についての認識は会社と一致しないことを通告しました」と強がっているが、もはや会社に見放され、迷走は深まっていくことだろう。ついに！革マル派が相当浸透しているJR東労組は、会社との信頼関係がなくなり、パートナーではなくなったのだ。

さあ、今こそJR連合、ジェイアール・イーストユニオンに結集し、未来を語ろう！